

(様式 1 - 第三者評価機関公表用)

宮城県福祉サービス第三者評価結果

1 第三者評価機関名

NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ

2 施設・事業所情報

名称：スクルドエンジェル保育園増田園	種別：保育所
代表者氏名：	定員（利用人数）： 60（48）名
所在地：宮城県名取市上余田字千刈田 886-1	
TEL：022-302-7860	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2019年3月31日	
経営法人・設置主体（法人名等）：SOUキッズケア株式会社	
職員数	常勤職員： 8名 非常勤職員 8名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 2名 保育士 4名
	幼稚園免許所持者 9名 保育支援員 1名
	調理師 1名 調理員 3名
	管理栄養士 1名
施設・設備の概要	保育室 3室、乳児室、調乳室、沐浴室、事務室、厨房、倉庫、図書コーナー、園庭

3 理念・基本方針

【企業理念】

◇「質の高い保育」を通して社会に貢献する
ご家庭と同じ様に温かく、安心できる環境でこども達を育みます。

【保育理念】

◇心身ともに「豊かな人間性」の基礎を培う
未来を創造する子どもたちのひらめきを大切に、考える力・生きる力を育みます。

【保育方針】

◇一人ひとりの子どもの状況や発達過程を踏まえ、自ら伸びゆく力を支えます。
◇温かい家庭的な環境のなかで、健やかな成長を育みます。
◇さまざまな体験を通して、子どもたちの自由な発想力や思考力を大切にします。
◇家庭を支援し、地域の一員として子育てを見守り、社会とのつながりを支えます。

4 施設・事業所の特徴的な取組

子どもが安心安全に、自宅のようにリラックスして過ごせる保育園を目指している。外部講師によるリトミック、幼児英語プログラム、幼児体操を取り入れている。園全体として、「モンテッソーリ教育」を取り入れた保育を展開している。

保護者支援の一環として使用済みのおむつは保育園で処分、午睡用の布団の貸与、シーツの洗濯は保育園でしており、保護者負担はとても少ない。

5 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年5月22日（契約日）～ 2025年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

6 総評

◇特に評価の高い点

1. 生活にふさわしい場として子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している点

保育指導計画は年齢ごとの特徴を把握し、望ましい成長のための環境づくりに取り組んでいる。日ごろから子どもをよく観察して、日々の変化を把握している。職員のヒヤリングから子ども一人ひとりに応じた保育をしている様子が伺える。子どもの発達と家庭環境に合わせて、生活習慣を身につけるよう保育している。

3歳以上児の保育において、年齢ごとの興味関心のある活動や自分の力を発揮しながら、友だちと楽しめるような環境設定や保育士の援助がある。また、「モンテッソーリ教育」を日課の一つとして取り入れ、集中力や達成感の習得を図っている。保護者には子どもの育ちや協働活動について伝えている。

2. 家庭の負担を軽減して、保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている点

安全に関する連絡はSNSで管理されており、決まった内容については速やかに一斉に連絡している。その他必要に応じて個別に連絡帳を活用したり、送迎の時間を利用して情報交換をしている。保護者アンケート結果からも確認できる取組である。保護者支援の一環として使用済みのおむつの持ち帰りをなくし、午睡用の布団の貸与、シーツの洗濯は保育園で行い、保護者負担を少なくしている。

3. デジタルを活用し保育の質を高め、保育士の業務の軽減を図っている点

子どもの健康管理では、乳幼児突然死症候群について全児童のSIDSチェックを行っている。0歳児は5分毎、1・2歳児は10分毎、3・4・5歳児は30分毎に観察して、全職員がデジタルで共有している。担当の保育士と保護者との連携についてはSNSを活用している。デジタルを活用し、保育の質を高め、保育士の業務の軽減を図っている。

◇改善を求められる点

1. 中・長期的なビジョン(目標)を明確にした中・長期計画の策定が求められる点

本部との連携のもとに、地域の状況を把握し、園としての中・長期計画を策定することが望まれる。事業計画の重要性を確認し、策定にあたって職員の意見の集約、見直しの時期、評価時期を定めて、職員の参加の下で取り組むことが求められる。

また、理念に向けた保育を実践していくためにも、本部は必要な人材の確保・定着に関する具体的な計画を策定すること、園としても人材確保を提言し、本部と情報を共有することが求められる。

2. 「期待する職員像」を明確にし、保育の質の向上のため職員研修の充実が望まれる点

法人としては、「職員心得」を明示しているが、保育園としての「期待する職員像」が明確になっていない。園では、「モンテッソーリ教育」を進めていくための職員教育がなされている。

今後は、「期待する職員像」に基づき、職員一人ひとりの評価や教育・研修の取り組みを事業計画に明記し計画的に進めていくこと、研修の継続した記録の作成が望まれる。

7 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

事業計画をもとにした「中・長期計画」を、園と共有し取り組むことが当園の大きな課題と認識しました。マニュアルに関しては、足りていない部分をご指導いただいたので、園に合わせた内容による整備を早急に実施いたします。地域交流に関しては、事業所全体で、令和6年度より力を入れているので、今後活動がより広がるように地道に取り組んで参ります。

子どもたちが心地よく過ごすことのできる環境や家庭の負担軽減に取り組んでいることを評価されたことは、保育理念に沿っているところであり、とても嬉しく思いました。

今回の評価を受け、今後も、安心・安全で、地域に根付いた選ばれる保育園であるよう、園と運営が一体となって運営整備に取り組んで参ります。

8 各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙のとおり（施設の区分に応じ福祉サービス第三者評価結果票を添付する。）

(別紙) (SOU キッズケア株式会社 スクルドエンジェル保育園増田園)
福祉サービス第三者評価結果票
【 保 育 所 版 】

※ すべての評価項目（65 項目）について、判断基準（a・b・c の 3 段階）に基づいた評価結果を表示する。

※ 評価項目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<p><コメント></p> <p>企業理念・保育理念は、重要事項説明書に掲載されており、またホームページにも記載がある。入園説明会でも説明しており、保育理念を毎朝園児と唱和している。今後も、理念が保育園運営の基本になることを職員と研修等で確認しながら、取り組まれることが望まれる。</p>		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	c
<p><コメント></p> <p>本部から、月次の経営状況が細かく知らされていない。園長は、日々の小口現金の支払いをし、ネットで物品購入をしている。保育園の経営状況について本部とも話し合い、園長はじめとした職員が把握し、地域での経営環境や課題を本部と共有し、連携のもとに事業経営をすすめていくことが求められる。</p>		
③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	c
<p><コメント></p> <p>毎月の収支及び地域社会の状況を本部と保育園とが把握し、経営課題を明確にし、本部と共に具体的な取り組みが求められる。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
④	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c

<コメント>		
<p>保育園経営の見通しを持つためには、中・長期の見通しの下での保育園経営が必要である。園長は、SOU キッズケア（株）の経営本部とも話し合いながら、スクルドエンジェル保育園増田園としての中・長期計画の策定の下に、課題を明確に持つことが求められる。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
<コメント>		
<p>単年度事業計画では、1年間に保育園がどのようなことをするのか、園児に対しての保育内容（この中には行事も含まれる）・保護者への支援・地域での子育て支援等を職員皆で計画し、共有し保育事業に取り組まれることが求められる。今後の取り組みに期待する。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c
<コメント>		
<p>事業計画の重要性を確認し、策定期間、策定にあたって職員の意見の集約、見直しの時期、評価時期等を定めて、職員の参画の下で事業計画が策定されることが求められる。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	c
<コメント>		
<p>事業計画の位置づけを明確にし、保護者参加を促す観点から説明の工夫をし、保護者への周知を行うことが求められる。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<コメント>		
<p>日々の保育の振り返りを行っている。Plan（計画）Do（実施）Check（評価）Action（改善）＝PDCAは保育指導計画に基づき実施されている。今後、事業計画を策定し評価基準や自己評価等の見直しの期間を定め全職員が参加して組織的な取り組みが望まれる。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果に基づき保育所として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<コメント>		
<p>保護者に対して年度末、行事ごとにアンケートを取っている。保護者からネットへの書き込みがあった時にも、職員皆が読み合って、課題の共有を行っている。</p>		

今後は、計画的な改善策を見出し、取り組み、それを記録として残すことが望まれる。

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<p><コメント></p> <p>園長は、折に触れて職員に自らの役割と責任を表明している。その姿勢を職員は受け止めている。</p> <p>今後は、有事のみならず日常業務の園長の役割と責任について明文化し、会議や園便りでの表明が望まれる。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>園長は、園長会等の研修で関係法令を学び、児童虐待防止・個人情報保護・守秘義務の法令遵守の立場を固く守っている。職員会議の会議録から職員にも指導している。</p> <p>今後は、広く社会福祉に関する法令や雇用・労働、環境に関する法も学び、職員に対しての指導が望まれる。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	b
<p><コメント></p> <p>行事ごとと年度末にアンケートを行っており、次へつなぐ取り組みをしている。アンケート結果をもとに、主任保育士とともに職員の教育・研修を行っている。</p> <p>今後も、保育の質向上のために、組織的な体制の構築が望まれる。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
<p><コメント></p> <p>業務改善の一環として超過勤務をなくすために、変形労働時間制を導入している。経営改善や実効性を高めるために、主任ほか複数名での管理部を構成して進めていくことが望まれる。</p>		

II-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c
<p><コメント></p> <p>人材確保については、本部の業務となっていて、園としての取り組みがなされていない。理念に向けた保育を実践していくためにも、園として人材確保を提言し、本部と情報を共有しながら取り組みを進めることが求められる。</p>		
15	II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	b
<p><コメント></p> <p>本部が定める「就業規則」があり、「職員心得」が明示されている。職員に対して処遇や評価等の「人事基準」を明確にして、職員が自らの将来を描くことができる人事政策を進めていくことが望まれる。</p>		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
<p><コメント></p> <p>保育園管理部は、職員の心身状況を把握し申出により勤務シフトを組み替えている。「働きやすい職場」「風紀を乱さない」等を保持するために苦慮している様子が伺える。</p> <p>今後は、具体的課題を明確にし、人材確保と職員の定着に取り組んでいくことが望まれる。</p>		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>職員一人ひとりに対して、年2回の個別面談を行っている。職員の心身状況が尊重された面談となっており、さらに育成目標が明確に設定されることが望まれる。</p>		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<p><コメント></p> <p>企業としては、「職員心得」が明示されている。保育園としての「期待する職員像」が明確になることが望まれる。園では、「モンテッソーリ教育」を進めていくための職員教育がなされている。「モンテッソーリ教育」を基本とし、職員の研修計画策定が望まれる。</p>		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
<p><コメント></p>		

<p>保育園管理部は、職員一人ひとりに対して、配慮した園内教育・研修を行っている。職員の成長は、保護者からの評価からも伺える。保育記録の書き方も向上してきている。</p> <p>今後は、職員一人ひとりの評価や教育・研修の取り組みを計画的に進めていくこと、及び研修の記録を残すことが望まれる。</p>		
<p>Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
<p><コメント></p> <p>実習マニュアルは整備されている。今後は、職員体制を整え、実習生の受け入れが望まれる。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
<p>Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。</p>		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<p><コメント></p> <p>ホームページには、法人、保育園の理念と基本方針、保育内容（「モンテッソーリ教育」を行うこと）が明記されている。</p> <p>今後は、運営の透明性を確保するため、保育園の運営についても情報公開を行うことが望まれる。</p>		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	c
<p><コメント></p> <p>保育園としての事務、経理、取引に関するルール、職務分掌と権限・責任を明確にし、外部に開かれた経営・運営が求められる。</p>		

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
<p>Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。</p>		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>園の保育方針に「家庭を支援し、地域の一員としての子育てを見守り、社会とのつながりを支えます。」と明文化している。園長が市内の園長会議への参加を通して情報交換を行っているが、コロナ禍の中で、子どもと地域との交流を広げる働きかけが十分とはいえない。</p>		

<p>保育園は、地域の子育て支援施設として位置づけられており、今後の課題として、保育園や子どもへの理解を得るために、地域に開かれた取組をすすめることが望まれる。</p>		
24	<p>Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p>	<p>b</p>
<p><コメント></p> <p>ボランティア受け入れマニュアルはあるが、現在保育士の人手不足のため、受け入れていない。今後の課題として、子どもとの交流を図る視点で必要な研修や支援の取り組みが望まれる。</p>		
<p>Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>		
25	<p>Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p>	<p>b</p>
<p><コメント></p> <p>要保護児童対策地域協議会に参画している。地域の中の保育園として、様々な地域の団体との関係を広げていくことが望まれる。</p>		
<p>Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>		
26	<p>Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。</p>	<p>b</p>
<p><コメント></p> <p>運営委員会の開催を行っており、その記録もある。保護者及び地域の中での子育て支援を行うための施設として、地域の具体的な福祉ニーズを把握する今後の活動が望まれる。</p>		
27	<p>Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。</p>	<p>b</p>
<p><コメント></p> <p>町内会長が年に3回ほど来園し情報交換を行っている。災害時の避難について相談し対応している。災害時の食料の備蓄もリストにもとづいて準備している。</p> <p>園長は、意欲的に園での保育に取り組んでおり、今後は、把握した地域の福祉ニーズに基づいた具体的な事業・活動を事業計画に明示し、取り組むことが望まれる。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		<p>第三者評価結果</p>
<p>Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。</p>		
28	<p>Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。</p>	<p>b</p>
<p><コメント></p>		

<p>「モンテッソーリ教育」を実践している。「モンテッソーリ教育」とは、一人ひとりを大切に にする保育理論と考える。子どもを尊重した保育の実施を明文化し、職員同士が理解を深め 取り組んでいる。定期的に状況の把握や評価を行い、その方針を保護者にも伝え理解を得る 取り組みが望まれる。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われ ている。	a
<p><コメント> プライバシー保護についてはマニュアルを整備し、園長をはじめ職員の研修を行って いる。保護者にも説明している。</p>		
<p>Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。</p>		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極 的に提供している。	b
<p><コメント> 保育園入園希望者への見学を受け入れている。ホームページ等で当園の特徴や必要な情報 を積極的にアピールしている。今後入園希望者には個別的に丁寧な説明が望まれる。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説 明している。	b
<p><コメント> 入園するときに重要事項説明書に基づき保護者に丁寧に説明している。配慮が必要な保護 者に対しては理解が深められるように工夫しているが、説明の方法についてルール化するこ とが望まれる。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対 応を行っている。	c
<p><コメント> 当園から他の保育園への転園や入学後も親しみを持って保育園を訪問することが考えら れる。これまでの保育園生活を大切に、心理的負担を少なくするためにも受け入れ体制を 整えることが大切である。いつでも相談できるように担当者や窓口を設置することが求めら れる。</p>		
<p>Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。</p>		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組 を行っている。	b
<p><コメント> 日々の保育の中で、子どもの満足を把握する取り組みが行われている。保護者に対しても アンケートがなされており、保護者が自主運営する「運営会議」に職員も参加している。利 用者満足度を把握した内容について分析・検討し具体的な改善が望まれる。</p>		

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	c
<p>＜コメント＞</p> <p>本部として、苦情解決の体制は整っている。園独自として検討することが望まれる。苦情を苦情として受け止めるのではなく、保育内容や保育園自体をより良いよいものに変えていくための提言として、苦情解決制度そのものの役割を保護者にも知らせ、フィードバックする取り組み、公表することが求められる。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	c
<p>＜コメント＞</p> <p>子育ては、保護者とともに行う営みであることを職員皆で共有し、保護者が意見を述べやすい環境（スペースの確保等）や相談相手を選ぶことができる等に配慮し、取り組むことが求められる。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
<p>＜コメント＞</p> <p>日々の保育で保護者対応に配慮していることが伺える。ネットでの意見や苦情に対して、園長を先頭に対応していることも、記録から分かる。今後は手順書を整備し、組織的に対応することが望まれる。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<p>＜コメント＞</p> <p>日ごろから安全保育には配慮がされている。些細なトラブルでもヒヤリハットの記録がされており記録は職員全体で共有している。園内研修では担当を決めて不審者対応、水遊び、玩具の見直し等の研修が毎月実施されている。</p> <p>今後は、事故発生予防に関するマニュアルに基づき、リスクマネジメントに関する委員会の設置及び組織的に取り組む体制の整備が望まれる。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
<p>＜コメント＞</p> <p>日ごろから手洗いうがいを励行し感染症防止に努めている。しかし感染症予防対策は組織的に行われておらず、責任と役割が明確にされていない。</p> <p>今後は、健康管理・衛生管理の感染症に関するマニュアルに基づき研修をすすめ、マニュアルを定期的に見直す仕組み、保護者への情報提供の在り方を文書化することが望まれる。</p>		

39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
<p><コメント></p> <p>毎月避難訓練が行われており、子ども、保護者、職員の安否確認の方法が決められている。食料の備蓄リストを作成し管理者を決めて整備している。しかし地域との交流が少なく、緊急事態発生時の支援の確保が難しい。災害時の子どもの安全確保のために地域の福祉資源を最大限に活用する方法の検討が望まれる。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が明文化され保育が提供されている。	b
<p><コメント></p> <p>児童憲章や児童福祉法を基本に保育理念、保育目標、保育方針が策定されている。年間指導計画を基に月案、週案、日案、3歳未満児については個別支援計画が策定されている。標準的な保育の中にも、年齢（月齢）や保育時間に合わせた配慮がある。</p> <p>保育計画や保育日誌、児童票、健康管理票から標準的な保育が実施されている。今後は、標準的な実施方法を明文化し職員研修や個別指導することが望まれる。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<p><コメント></p> <p>保育指導計画は毎月提出日が決められており、定期的な見直の後に次期の計画が策定されている。全クラスが一人担任であることから、計画作成や見直しは一人であることが多く他の職員や保護者の意見、提案を反映させる仕組みがない。日々の保育を俯瞰的に捉えるためにも、保育指導計画に関しては複数の職員が関わることを望まれる。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントに基づく指導計画を適切に作成している。	b
<p><コメント></p> <p>子どもに寄り添い心身の状態を把握している。指導計画作成の責任者が設置され、適切なアセスメントが実施されている。保護者とのコミュニケーションは送迎の時間を利用している。支援困難ケースについては主任保育士や園長が助言している。今後、指導計画作成にあたっては、担任以外の保育士の意見を反映させる仕組みが望まれる。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b
<p><コメント></p>		

指導計画策定は毎月月末に提出されており、アセスメントは翌月の指導計画に反映されている。しかし見直しを行う時期や検討会議、保護者の意見把握等の方法が明文化されておらず、担任一人の裁量になっている。指導計画の評価見直しについては関係職員や保護者の意向が反映される仕組みが望まれる。

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
<p><コメント></p> <p>保育の実施状況は統一した様式によって適切に記録されている。送迎時間、保育日誌、児童票、保育指導計画、健康管理表は適切に記録されている。標記する語彙は職員により差異が生じないように、望ましい標記例を示している。園内研修や職員会議は毎月開催されており、参加できない職員に対しては速やかに回覧し情報を共有している。保育の引継ぎに関してはチェック表を活用して正確に行われている。英語、リトミック、体操教室等の外部講師による保育については、それぞれ年間計画が提出されクラスの指導計画に反映している。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
<p><コメント></p> <p>個人情報の取り扱いについては入園するときに重要事項説明書に基づき保護者に説明している。情報の取得、管理措置、第三者への提供、開示要求への対応等が規定されている。個人情報が記録された書類は事務室の書棚に保管され施錠されている。職員は個人情報保護規程を理解し遵守しているが、定期的な教育や研修が行われておらず改善が望まれる。</p>		

評価対象A 福祉サービスの内容

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 全体的な計画の作成		
46	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<p><コメント></p> <p>児童憲章や児童福祉法の趣旨に基づき、保育理念及び保育目標が作成されている。保育指導計画を担任が作成して主任保育士と園長が確認している。全体的な指導計画は定期的に評価を行い次期の計画作成に生かしている。しかし、担任以外の職員が、指導計画作成に参画することはない。子どもの発達過程や成長を職員同士が確認し合い、次期の指導計画に結びつけることが望まれる。</p>		

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
47	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
<p><コメント></p> <p>室内の温度、湿度、換気、採光等が毎日チェックされ、園内外の設備、用具、遊具の安全管理や寝具の衛生管理は定期的に見視で確認されている。子どもがくつろいだり、落ち着ける場所を設けたり、抵抗力の弱い0歳児の保育室には異年齢児の入室を制限して安全、衛生に配慮している。</p>		
48	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>日ごろから子どもをよく観察して日々の変化を把握している。職員とのヒヤリングから子ども一人ひとりに応じた保育をしている。</p>		
49	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>子どもの発達と家庭環境に合わせて、生活習慣を身につけるように保育している。また子どもの特性や自発性を尊重している。</p>		
50	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b
<p><コメント></p> <p>園内では子どもが自主的・自発的な遊びと生活ができるように、環境整備をしたり戸外活動を取り入れている。しかし友だちとの人間関係を育てる活動が少ない。身近な自然と触れたり散歩や地域の人との会話、社会体験には安全リスクも懸念されるが、十分な配慮をしながら発達にふさわしい活動が望まれる。</p>		
51	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>特定の保育士との関係を大切にして、心の安定、安心が図られている。保育室は静かな環境と衛生管理の視点から異年齢児の出入りを制限している。0歳児は疾病への抵抗力が弱く個人差が大きいことから、保護者との連携を密にし保健衛生に配慮している。午睡中のSIDSチェックは5分毎に行われ、データとして保管され全職員が共有している。</p>		

52	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>子どもの状況に応じて自発性を尊重して十分に活動できるように環境整備している。友だちとのやりとりを躊躇している子どもに対しては、保育士が仲立ちとなり遊びの発見や面白さを体験できるように援助している。しかし、保育士以外の大人との関わりはほとんどなく、近所の人との挨拶や地域との関わりが望まれる。</p>		
53	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>年齢ごとに興味関心のある活動や自分の力を発揮しながら、友だちと楽しめるような環境設定や保育士の援助がある。また「モンテッソーリ教育」を日課の一つとして取り入れ、集中力や達成感の習得を図っている。保護者には子どもの育ちや協働活動について伝えている。</p>		
54	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>現在は障害児の入園はないが、いつでも入園できるように建物や設備の環境整備をしている。2024年度は障害児保育に関する研修は計画されてないが、ニーズに応じていつでも対応できる体制の整備が望まれる。</p>		
55	A-1-(2)-⑨ それぞれの子ども在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>在園時間の長さは子どもにより異なるため、個別の心身の状態に配慮している。異年齢児と一緒に過ごしたり家庭的でゆったり過ごせる環境整備を行っている。保育士間の引継ではチェック表を活用して連絡漏れのないようにしている。担当の保育士と保護者との連携についてはSNSや連絡帳を活用している。</p>		
56	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>保育士や友だちとの会話に入学の話題を取り入れ関心を持てるようにしている。入学後の生活について質問や意見があった場合は丁寧に説明している。</p> <p>就学に伴い保育所児童保育要録を作成して小学校に提出しているが、今後は、保育所と小学校との連携を密にして意見交換や合同研修会等の検討が望まれる。</p>		

A-1-(3) 健康管理		
57	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>一人ひとりの健康状態については既往症、予防接種状況が記録されている。乳幼児突然死症候群については、全児童のSIDSチェックしている。0歳児は5分毎、1・2歳児は10分毎、3・4・5歳児は30分毎に観察して、全職員がデジタルで共有している。</p>		
58	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a
<p><コメント></p> <p>内科健診や歯科検診の結果については健康管理票に記録し、保護者には文書で伝えている。健康状態について保護者と共有している。</p>		
59	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>現在はアレルギー疾患、慢性疾患の子どもは入園しておらず、保育の中で具体的な対応はない。いつでも入園ができるように、園内研修をしたり子どもや保護者の理解を図る取り組みを行っている。</p> <p>今後は、医師や保健師と連携して対応できる体制づくりが望まれる。</p>		

A-1-(4) 食事		
60	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b
<p><コメント></p> <p>子どもが、広く落ち着いた空間で楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。早く食べ終わった子どもは一定の時間、静かに待っている。食について関心を深める取り組みとして、おにぎりやピザ等のクッキング保育をしている。保護者には昼食のメニューを展示して食事内容を知らせている。食事の量は個人差があることから加減の検討が望まれる。</p>		
61	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <p>子どもの発育状況や体調を考慮して食べる量や好き嫌いを把握している。栄養士は毎日、食事時間に保育室を訪問して、好きなメニューや残食の様子を観察したり、食事をとおして子どもと関わっている。残食については保育士と連携して子どもに働きかけた結果、少なくなっている。季節感のある献立や地域の食文化、行事食に取り組んでいる。</p>		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
62	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>安全に関する連絡は SNS で管理されており、決まった内容については速やかに一斉に連絡している。その他必要に応じて個別に連絡帳を活用したり、送迎の時間を利用して情報交換をしている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
63	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>意見箱を設置しているが、これまで投函がない。保育園の運営会社がメールで保護者アンケート調査を行い、集計結果を保護者にフィードバックしている。</p> <p>今後は、苦情解決担当者や相談窓口・対応職員を選べる方法を知らせること、相談内容を適切に記録することが望まれる。</p>		
64	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>家庭の養育状況を把握するため、子どもの言動や心身の状態の把握に努めている。子どもの権利侵害が疑われる場合は、職員間で情報共有して協議する体制がある。虐待の予防対策として保護者の心身の状態や生活面の援助にも心がけている。日ごろから地域の福祉資源を把握しており、いつでも連携できる体制がある。</p> <p>今後は、児童虐待に関するマニュアルに基づき、職員の研修が望まれる。</p>		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
65	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返りを行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>職員は毎年2回園長と面談して自己評価及び目標設定をしている。職員自身の子育てや配偶者の都合でキャリアアップを目指す者が少ない。また職員配置に余裕がないため外部研修が制限されて専門性の向上が難しい状態である。しかし面談や自己評価をする中では一部の保育士に意識の向上が見られる。将来のビジョンが描けるように研修を充実させることで、自身の専門性や意識の向上が望まれる。</p>		